

畜産とくつく情報

平成 16 年 7 月 12 日
(通算 第 54 号)
問い合わせ先
長野県庁畜産課
電話:026-235-7232

高病原性鳥インフルエンザの感染経路について

高病原性鳥インフルエンザが、山口県、大分県、京都府の3府県で発生し、その感染経路などについて、農林水産省に設置された「高病原性鳥インフルエンザ感染経路究明チーム」で検討された結果がまとまりました。

感染経路

3府県の発生は、それぞれ関連性はなく、国内には韓国などから渡り鳥によってウイルスが持ち込まれ、それら渡り鳥のウイルスに汚染された糞が、付近に生息する留鳥(カラス、スズメ、ハトなど)ネズミ等の動物や、人などの媒介により、鶏舎内に持ち込まれ、感染源となった可能性が高い、と結論が出されました。

予防対策

本病の発生を防ぐには、ウイルスを鶏舎内に「入れない・持ち込まない」対策が重要です。以下の侵入防止対策の徹底に引き続き努めましょう。

鶏舎の入り口や窓にネットなどを設置し、野鳥やネズミなどの野生動物の侵入を防ぎましょう。

また、堆肥舎等にも野鳥が入らないようにしましょう。

ウイルスを媒介する可能性のあるハエ、ゴキブリ等の衛生害虫への対策を強化しましょう。

野鳥と接触が考えられる生水は、鶏等へ給与しないようにしましょう。

鶏舎内へ、部外者が立ち入ることを禁止しましょう。

鶏舎内出入口に踏み込み消毒槽を設置し、ウイルスの侵入を防ぎましょう。また、養鶏場内に入る車両や、器具等の消毒を徹底しましょう。



侵入禁止



消毒の徹底

中国、タイ、ベトナムにおいて、7月に入り、高病原性鳥インフルエンザが発生しています。予防対策を徹底しましょう！

本病を疑うような死亡鶏が発生した場合は、直ちに最寄りの家畜保健衛生所へ連絡して下さい。また、鶏を1,000羽以上飼っている農家の皆さんには、法律に基づく報告をいただいておりますが、引き続きお願いいたします。

お問い合わせは、最寄りの家畜保健衛生所又は畜産課へお願いします。

畜産用飼料の適正な使用のために

輸入乾草によるエンドファイト中毒にご注意下さい。

近年、粗飼料の輸入が増加する中で、ペレニアルライグラスやトールフェスクのストロー（商品名としてはイタリアンライグラス、イタリアンストロー、ライグラスストロー、トールフェスクストロー等と呼ばれています。）に含まれるエンドファイト（内生菌）が産生する毒素により畜産の中毒事故が発生しています。

このような中毒を避けるため、牛等にペレニアルライグラス等のストローを与える場合は、他の粗飼料と混合給与する等により、多給を避けて下さい。

古畳に由来する稲わらの利用について

古畳に由来する稲わらについては、家畜の飼料用に販売・使用されている例がありますが、このような古畳由来の稲わらについては、ディルドリン、DDT、BHC等の現在使用が禁止されている有機塩素系殺虫剤を含む場合があります。古畳に由来する稲わらについては、以下の点に十分ご注意願います。

- 1 安全性の確認なしに古畳をほぐして家畜の飼料や敷料に用いないで下さい。
- 2 古畳をほぐして飼料用に販売又は譲渡する場合、飼料安全法に基づく飼料製造業者の届出が必要です。
- 3 「飼料の有害物質の指導基準」を超えて有害物質を含む稲わらについては、飼料としての販売や使用をしないで下さい。
- 4 家畜の飼料などに用いるための稲わらを購入する際は、来歴や品質管理の方法等について販売業者に十分ご確認下さい。

飼料添加物には、添加してよい飼料の種類などが細かく定められているものがあります。

抗生物質などの飼料添加物には、添加した飼料を与えてよい家畜の種類、生育段階等が細かく定められているものがあります。例えば同じ牛用飼料であっても、育成牛用のものと肥育牛や搾乳牛用のものでは、添加できる飼料添加物の種類や量が違っており、注意が必要です。

抗菌性飼料添加物はその性質等から4種類の区分に分けられ、同一区分に含まれる2種類以上の抗菌性飼料添加物を併用することが禁止されています。家畜に複数の配合飼料を同時に給与する場合は、各々に含まれる抗菌性飼料添加物が併用禁止のものでないことを確認願います。特にほ乳期子牛で代用乳と人工乳を使用する場合、切り替えが徐々に行われるため銘柄の組み合わせによっては同一区分の抗菌性飼料添加物を併用してしまう可能性があるので、銘柄の選択には十分ご注意願います。

抗菌性飼料添加物の併用の禁止

区分	各区分に含まれる抗菌性飼料添加物
1	アンブロリウム・エトパベート、アンブロリウム・エトパベート・スルファキノキサリン、サリノマイシンナトリウム、センデュラマイシンナトリウム、デコキネート、ナイカルバジン、ナラシン、ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム、モネンシンナトリウム、ラサロシドナトリウム
2	クエン酸モランテル、デストマイシンA、ハイグロマイシンB
3	亜鉛バシトラシン、アピラマイシン、アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン、エフロトマイシン、エンラマイシン、キタサマイシン、クローテトラサイクリン、セデカマイシン、チオペプチン、ノシヘブタイド、バージニアマイシン、フラボフォスフォリポール、ポリナクチン、リン酸タイロシン
4	アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン、クローテトラサイクリン、ピコザマイシン、硫酸コリスチン

注：本表の同一区分に含まれる2以上の飼料添加物を併用することは禁止されています。